

13. 主気管支狭窄を伴う肺の換気・血流
(¹³³Xe, ^{99m}Tc-MAA による)

飯尾正明 井樋六郎 松田美彦
浜野三吾
(国立療養所中野病院)

主気管支狭窄を伴った肺の、肺機能は悪く、如何に、それらを改善するかは一つの課題である。

我々は、20例の主気管支狭窄例について、MAA, ¹³³Xe ガスによって、換気・血流を行った結果について報告した。

これらの症例はいずれも、胸部レ線所見で無気肺、大きな異常陰影は認められない。検査は全て背臥位で行った。

女性12例、男性8例、右側4例、左側16例、年齢は20歳から44歳まで、狭窄の状態は、0.5cm 以上2例、0.5cm 8例、0.5cm 以下10例 MAA の分布は狭窄側、10%以下5例、20%以下11例、最高で27%であった。

¹³³Xe ガスを酸素閉鎖回路中に入れて連続呼吸法によって、換気を観察した、10例に行った。

以上の結果

主気管支狭窄の換気障害については、次の3点があげられた。

- 1) 狭窄側の肺に air Trapping を生ずる。
- 2) 対側肺にも影響を与えている。即ち、深吸気より深吸気を行った場合に、予備呼気量が減少する。
- 3) 主気管支狭窄部位で、jet 気流にも似た気流が生じやすい。

又換気・血流については、換気障害のある群では、安静時1回換気量分布と、肺血流分布は比較的よく一致する傾向があった。

14. 小児骨及び軟部腫瘍スキャンニングの経験

山岸嘉彦 伊藤 正 隈崎達夫
渡辺英之 椎葉 忍 行武純一
唐沢正明 本多一義 西川 博
(日医大・放)

対象・方法

小児の原発性の骨及び軟部腫瘍について、R. I. の取込みを検討した。対象は当科に於てスキャンを行った、9ヶ月〜18歳迄の12例であった。使用核種は ^{99m}Tc・ピロリン酸, ⁶⁷Ga-Citrate, ¹⁶⁹Yb-Citrate であった。

^{99m}Tc は 0.5〜3.0mCi, ⁶⁷Ga は 0.5〜1 mCi, ¹⁶⁹Yb は 0.3〜0.5mCi を使用、装置は東芝製 RD A 106-1 Type のスキャナースキャンスピードは 66〜90cm/分で行なった。

結 果

	⁶⁷ Ga	^{99m} Tc	¹⁶⁹ Yb
5歳♀ Ewing 肉腫	(+)		
18歳♂ Osteogenic sarcoma			(+)
8歳♀ fibrous cortical defect	(-)		(-)
12歳♂ exostosis	(-)	(+)	
6歳♂ fibrous dysplasia	(+)	(+)	
9歳♂ exostosis	(+)		
12歳♂ solitary bone cyst	(-)		
8歳♂ solitary bone cyst	(-)	(-)	
8歳♂ multiple exostosis	(-)	(-)	
4歳♀ fibroma (右臀部)	(-)		(-)
1歳♂ caltinosi cutis (右膝)	(-)	(-)	
9ヶ月♀ rhabdomyo sarcoma (右眼部)	(+)		

以上原発性骨悪性腫瘍は2例共取込みがあり、又軟部悪性腫瘍 (rhabdomyo sarcoma) にも著明な集積が見られた。

良性腫瘍中、fibrous dysplasia には明瞭な, exostosis には僅かな取込みがあったが、fibrous cortical defect, solitary bone cyst には取込みはなかった。

軟部良性腫瘍では取込みはなかった。

15. 慢性関節リウマチのシンチグラム

大森薫雄
(慈恵大・整形外科)